

東京トラウトカントリー溪流フライ教室

2010年2月7日(第3回)

担当: 宮崎 俊太

講習内容はそれぞれの知識と容易なテクニックを組み合わせることによって溪流でのフライフィッシングの楽しみを拡げるものになるように考えました。講習中は疑問に感じていること、知りたいこと等々どのようなことでも気兼ねなく質問してください。

講習のアウトライン

溪流のフライフィッシングを 楽しむ

- 流れの中のトラウトを釣る

溪流を歩く

注意深く歩き、流れをよく観察することは必ず釣果につながります

- 流れを観察する
エリア内の流れを釣りにそくして歩きながら観察します

溪流魚を考える

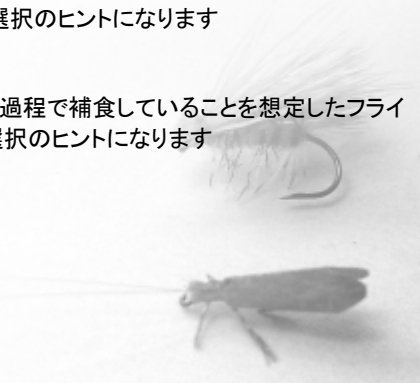
トラウト達を知ることは溪流の釣りをより楽しくするでしょう

- トラウトはどこにいるのか
変化に富む流れにトラウト達は適応しています
- フィッシュウインドウ
トラウトから見て、水面上の視野のひろがりを見出し呼びます
- 水の屈折率
水中に見えるトラウトまでの距離は水の屈折により目測を欺かれます

フライについて

どのような場合にどのようなフライを選択しているかをインストラクターのフライボックスの中身で考えてみましょう

- アトラクター
フライの存在感を形やマテリアル、動きなどでトラウトにアピールするフライは季節や水況が選択のヒントになります
- ハッチマッチャー
トラウトが昆虫のある成長過程で補食していることを想定したフライはトラウトの補食行動が選択のヒントになります



アプローチ

水辺から少し離れて、流れの手前から釣り始めるとトラウトを釣るチャンスが増えると思います

- ストリーキング・アプローチ
トラウトにプレッシャーをなるべく与えないアプローチを意識してみましょう
- ショート・リーダーについて
狭い溪流ではまずリーダーを短めにしてみましょう
- 5ヤード（約4.5メートル）の距離感
あらかじめ距離感を掴んでおくとフライの位置を予測することができます

ライン・コントロール

ラインをコントロールしてフライを様々なポイントに導きます。実際に練習してみましょう

- 基本キャスト
5ヤード程度のラインで4つのキャスト・ステップを意識したキャストを練習します
- ループコントロールとリーチキャスト
フライをナチュラルに流すためのテクニックを試してみましょう
- メンディング
着水したラインを操作することでフライをポイントに誘導・よりナチュラルに、効果的に流し続けます

実釣

狙うポイントをよく観察して最適なポジションから最適なキャストします

- ドライフライで釣る
インストラクターがアプローチ～キャストのデモをします
- ニンフフライで釣る
インストラクターがマーカを使わないでアプローチ～ラインコントロールのデモをします
- マイポイントを見つける
個々でこれまでの講習内容を実践してみましょう

その他

- 質疑応答など

以上が午前中の講習です。昼食の後、自由釣行となりますが午前中の講習を思い出しつつ、各自で自由にトラウトを釣っててください。適時に講師が回り個別なアドバイス・質疑応答などをいたしますのでよろしくお願いいたします。

タイムテーブル

講習当日の進行予定をご確認ください。

- ✓ 午前08:00 集合～講習開始
- ✓ 午前11:20 クラブハウスに集合・午前中のまとめと昼食
- ✓ 午後～ 自由釣行と個別なアドバイス
- ✓ 午後04:00 クラブハウスに集合・きょうのまとめ



アフターフォロー

個別のアドバイス時など、気が付いたことなどをまとめた資料を後日「アフターフォロー」欄に掲載いたします。

資料

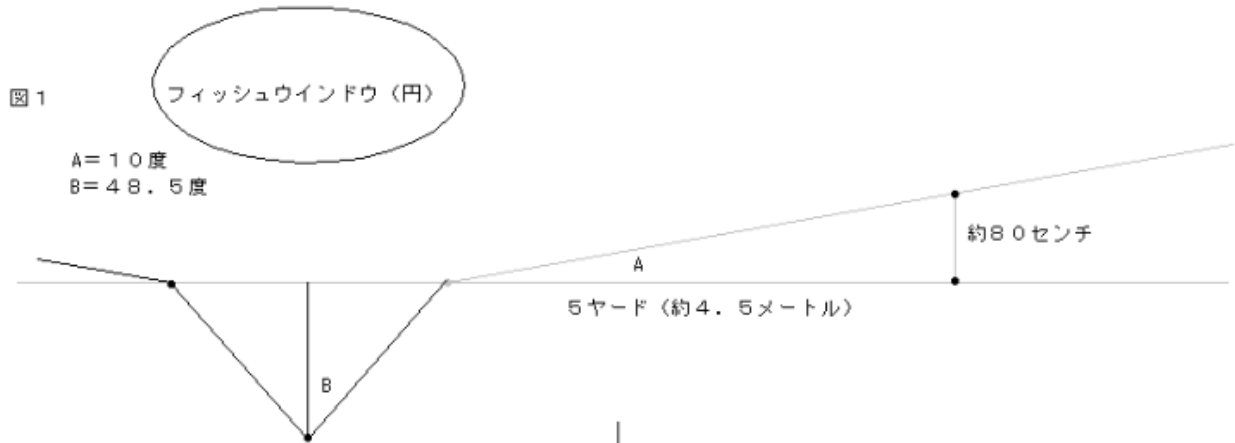
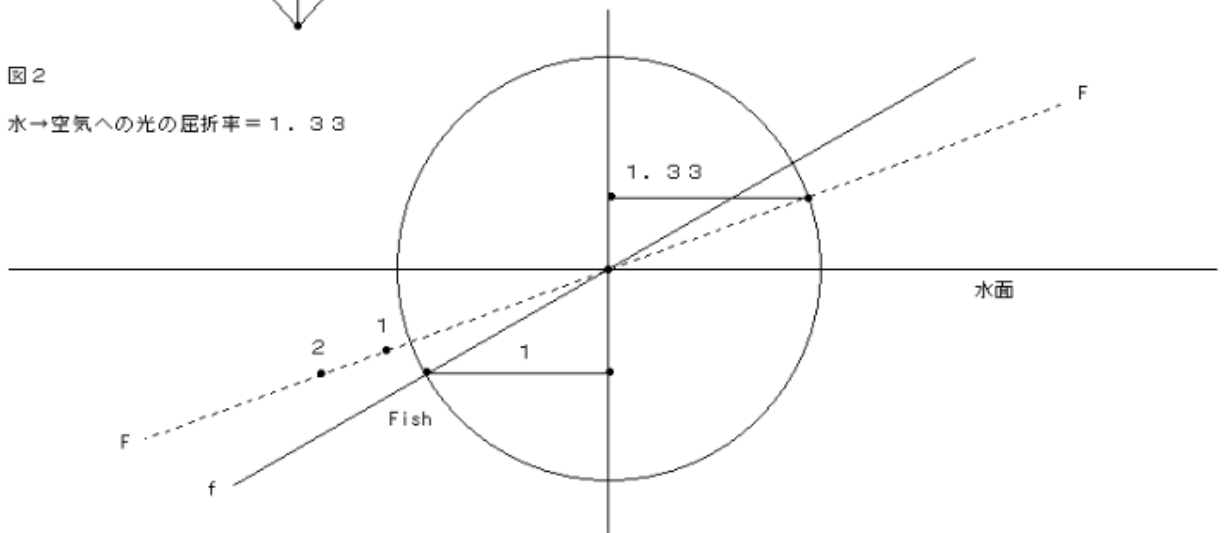


図2

水→空気への光の屈折率 = 1.33



溪流フライ教室担当・宮崎の自己紹介

- 57年、東京生まれ。2009年より奥多摩町在住
- 77年に初めてフライロッドを手にする
- 90年よりバンブーロッドを製作
- 93年よりバンブーロッド作りを専業とする
- 好きな釣り：溪流のフライフィッシング

